

主催 日本福音ルーテル教会女性会連盟

日時 2021年6月9日

講師 日本福音ルーテル神水教会
潮谷義子

テーマ「人生100年時代・・・未知の時代の到来」

I. 高齢者とは・・・「私」の場合

1. 多様な姿・・・数字でたどる高齢者・・・別紙参照

①還暦・・・60歳

②年金受給開始・・・65歳

③高齢者医療負担 1割負担 75歳

④平均寿命（2019年現在）、健康寿命

87.45歳 ← 女 → 74.2歳

81.41歳 ← 男 → 71.2歳

⑤高齢化率（2020年9月現在）

日本 28.7%

イタリア 23.3%

2. 人口減少・少子高齢化同時進行の日本

3. 日本は「黒船」時代より脅威の中にいる

(フランスの学者 エマニュエル・トッド氏のことば)

II. 介護保険法施行から20年

1. 2000年（H12）4月実施

2. 施行の背景

①性差（男・女）に基づく役割分担

②家族の介護負担の基盤の弱体化

③男女共同参画基本法制定（1999）

④女性の社会進出

※子育て環境の貧弱 → 少子化要因

⑤介護保険法の評価

別紙参照

Ⅲ. 課題

2025年問題、2040年問題とは

- (1) 「団塊の世代（1947年～49年生れ）」すべてが75才以上を迎える。国民の5人に1人が75才以上、3人に1人が65才以上。有病率が高い。

※地域包括ケアシステム

2025年を目途に重度な要介護状態になっても住み馴れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることが出来るよう「住まい、医療、介護、予防生活支援が一体的に提供」する地域ケアシステムの構築

- (2) 75才以上高齢者の全人口に占める割合が2040年には20%をこえる予想。団塊シニア世代が65才以上になる。

社会保障費、介護ニーズの社会的課題。

働き手不足、財源不足。

単身世帯は総世帯数の39.3%を占める

2050年頃には20%の地域で無居住化。

※支え手減少社会・・・子どもの数40年連続で減少

無縁社会

ピンピンコロリの死 → ヨタヨタヘロヘロ（樋口恵子氏の表現）

※介護の姿

老々介護、認認介護、介護離職

↳60才以上同士 74.2%、75才以上 33.1%

ヤングケアラー、ダブルケア

- (3) 高齢者虐待

防止法 2005年（H17）11月成立、2006年4月施行

責任窓口 市区町村

誰が？ ・養護者（息子、嫁、娘、伴侶等）

・施設職員 ※ごく近い人、遠い人

虐待種別・・・身体的、心理的、ネグレクト

経済的

・認知症問題

スペシャルオリンピックスに関わって学ぶこと

- (4) ハード・ソフト両方から考える視点

・ユニバーサルデザイン

・SDGs “誰1人とり残さない” Sustainable Development Goals

教会は・・・？

・過去の肩書きにとらわれない

- ・年齢輪切り型思考にとどまらず
- ・“老” 働力
- ・ACP・・・？
(アドヴァンス・ケア・プランニング)
“人生会議” と厚生労働省は応募の中から命名
どんな人生の終わり方をしたいか
本人、医療関係者、家族（ときには友人）
ケアチームを入れてのはなし合い
※繰り返し意志確認
※生命の主人公は「私」という認識

IV. 地域共生社会をめざす

(1) 女性会連盟主題

ローマの信徒への手紙 6章8節

「神の恵みによって共に生きる」

(2) 血縁から社会的縁へ

(3) 支えられる・支えるの相互性

- ・人権、平等

北川聡子著「子育ての村ができた」より

- ・貨幣的価値の追求から生命の価値へ

(参考資料)

数字でたどる高齢者

100歳以上の高齢者の推移

(資料 厚労省)

	総数	男	女
1963年(S38)	153人	20	133
1985年(S60)	1,740	359	1,381
1995年(H7)	6,378	1,255	5,123
2005年(H17)	25,554	3,779	21,775
2017年(H29)	67,771	8,192	59,579
2018年(H30)	69,785	8,331	61,454

1人暮らしの高齢者の推移

	65歳以上の人口(千人)	1人暮らしの高齢者(千人)		%
		男	女	
1980年(S55)	10,729	192	718	8.5
1990年(H2)	14,453	295	1,318	11.2
2000年(H12)	21,829	662	2,398	14.1
2010年(H22)	29,768	1,420	3,598	16.9
2017年(H29)	35,195	2,048	4,228	17.8
2018年(H30)	36,881	2,226	4,604	18.5

ヨハネによる福音書 15章 16～17節

16 あなたがたがわたしを選んだのではない。わたしがあなたがたを選んだ。あなたがたが出かけて行って実を結び、その実が残るようにと、また、わたしの名によって父に願うものは何でも与えられるようにと、わたしがあなたがたを任命したのである。17 互いに愛し合いなさい。これがわたしの命令である。

(2021. 5. 9 角本牧師の説教より)

マタイによる福音書 25章 45節

『はっきり言っておく。この最も小さい者の一人にしなかったのは、わたしにしてくれなかったことなのである。』

サミュエル・ウルマン (1840年～1924年 ドイツ出身のアメリカの詩人) の「青春」という詩の最終節の文章 (岡田義夫さんの訳)

大地より、神より、人より、美と喜悅、勇氣と壯大そして
偉力と靈感を受ける限り、人の若さは失われない
これらの靈感が絶え、悲歎の白雪が人の心の奥までも蔽いつくし、
皮肉の厚氷がこれを固くとぎすに至ればこの時にこそ
人は全くに老いて神の憐れみを乞う他はなくなる

論 説



介護保険の歩みを見詰めてきた「市民福祉情報オフィス・ハスカップ」がレポート「介護保険の20年」をまとめた(120頁)。給付と負担と運営の変遷を丁寧に振り返り、小竹雅子代表はこう嘆く。

納得できる制度求めて

宮武 剛

介護保険と市民運動

サービスが使えない、負担が増えるという残念な結果だけには確実に利用者や介護者に届きます」

恒例の電話相談も掲載された、その幾つかを紹介したい(2020年分・一部簡略化)。

「介護保険のことをどこ

サービスが使えない、負担と相対している。

60代女性)。

「要介護3が更新で要支援2、ホームヘルプサービスが自費になった。再申請

者」

恒例の電話相談も掲載された、その幾つかを紹介したい(2020年分・一部簡略化)。

「介護保険のことをどこ

ら2に下がった。病気を抱

え、歩けないし、物を持つ

こともできないほど不自由

だ。行政不服審査を申し立

てた」(70代女性)「要介

護1が要支援になり、明らか

に重度と思われる要介護

5が4に下げられ、各自治

体が給付を制限するため、

認定の仕組みをおかしくし

ている」(ケアマネジャー

4月からの介護報酬改定

い。(本紙論説委員)

「複雑な見直しが進み重なるなか、『分かりづらい』から『分からない』状況になりつつあります。でも、

「複雑な見直しが進み重なるなか、『分かりづらい』から『分からない』状況になりつつあります。でも、

「複雑な見直しが進み重なるなか、『分かりづらい』から『分からない』状況になりつつあります。でも、

「複雑な見直しが進み重なるなか、『分かりづらい』から『分からない』状況になりつつあります。でも、

「複雑な見直しが進み重なるなか、『分かりづらい』から『分からない』状況になりつつあります。でも、

「複雑な見直しが進み重なるなか、『分かりづらい』から『分からない』状況になりつつあります。でも、

みやたけ・ごう NPO法人福祉
フォトラム・ジャパン副会長、学校
法人・社会医学技術学院理事長

の目玉は「科学的介護の推進」だ。全利用者のADL(日常生活動作)レベル、栄養状態、口腔機能、認知症状等を報告すると報酬が加算される。

この情報を「科学的介護情報システム」(愛称LIFE)と呼ぶデータベースに集約し、どんな状態に、どんなケアを提供すると、どう改善するか、を分析する。その積み重ねで、将来は成果評価(アウトカム)を軸にする報酬体系が全面的に導入されるだろう。

しかし、要介護状態のより正確な科学的判定や、生活援助の科学的な位置付けの方が優先的に取り組むべき課題ではないか。何よりも、利用者・家族が納得できる制度でなければならぬ。

(本紙論説委員)